

メカトロ技研

避雷装置を開発

無線中継局向けに販売

【高松】メカトロ技研（高松市、大村正次郎社長、087・840・1560）は、雷の直撃で発生する大電流の雷サージに耐えるギャップ式避雷装置を開発した。山頂や沿岸部に設置が多く、落雷被害が大きくなりがちな無線中継局舎向けなどに売り込む。価格は120万円程度。年間100台の販売を目指す。

通常、落雷から電力・光通信ケーブルを守るための避雷器や耐雷トランスは、比較的小さい電流の誘導雷サージに対応している。ただ3万ボルト級の

落雷を想定しているケースが多いため、直撃雷があった場合、避雷器などが破壊される場合もある。

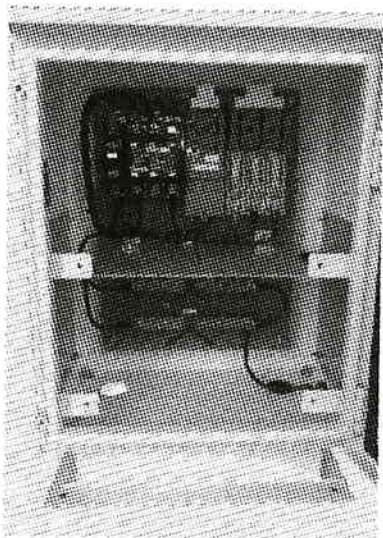
同装置は耐雷放電ギャップとその素子を用いて雷撃用の雷サージ保護装

置を構成する。落雷時にギャップがエネルギー放電することで雷サージ電流を分流し、落雷地点の電位を小さくして雷害を最小限にする仕組み。30万ボルト級の直撃雷にも耐えるという。

同社は1986年の設立。雷害対策設備の製造、設計のほか、電気・計装制御システムなどを手がける。11年7月期の売上高は1億円の見通し。

大村社長は「東日本大震災を受けて、注目が高

まる風力発電装置のブレードへの雷害対策用としても売り込みたい」としている。



雷の直撃で発生する大電流の雷サージに耐える